

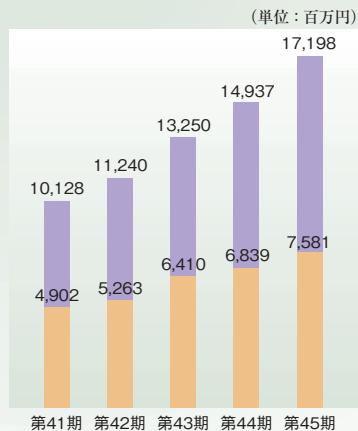
第45期  
報告書

株主・投資家の皆様へ  
(2008年10月1日～2009年9月30日)

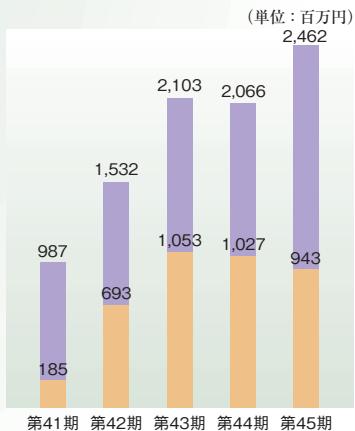
# 財務ハイライト

■ 通期 ■ 第2四半期

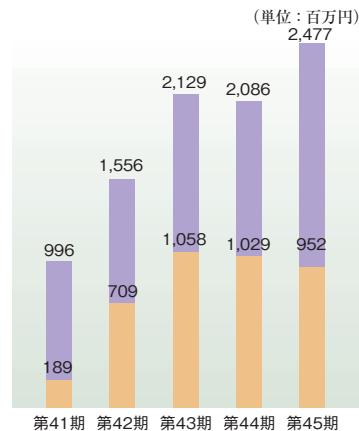
## ● 売上高



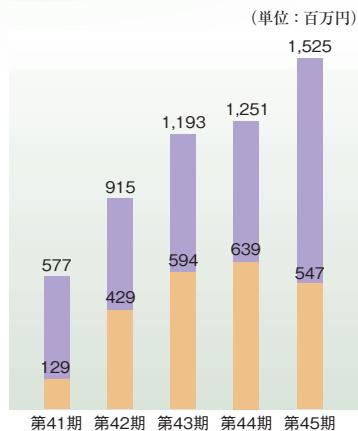
## ● 営業利益



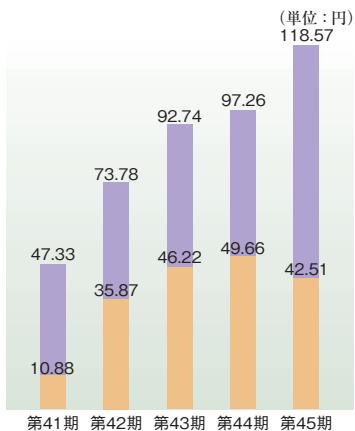
## ● 経常利益



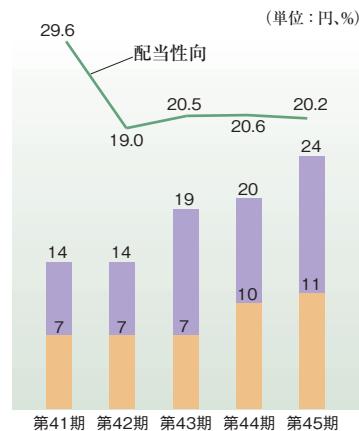
## ● 当期純利益



## ● 1株当たり当期純利益



## ● 1株当たり配当 / 配当性向





当事業年度におけるわが国経済は、米国におけるサブプライムローン破綻に端を発した世界的な金融市場の混乱により深刻な状況となり、景気対策によって落ち着きを取り戻すものの、依然として企業収益の大幅な悪化、雇用・所得環境への悪影響など、厳しい状況が続いております。

医療用医薬品業界におきましては、DPC（入院医療包括評価）対象病院が全国で1,283施設となるなど、ジェネリック医薬品使用促進の環境がより一層進展いたしました。また、国内外メーカー等の参入が活発化するなど、企業間競争が厳しくなっております。

このような状況のもと、当社は、重点領域である産婦人科領域において、新薬「ルナベル®配合錠」（子宮内膜症に伴う月経困難症治療剤）の販売に注力するとともに、不妊症治療薬等の主力製品のシェア拡大を図りました。また、DPC対象病院に向けては、基幹病院担当チームを中心として、新規開拓・取引拡大のための営業活動を積極的に展開してまいりました。

以上の結果、当事業年度の経営成績は売上高17,198百万円（前期比15.1%増）となり過去最高売上を更新いたしました。利益面におきましては、営業利益2,462百万円（前期比19.2%増）、経常利益2,477百万円（前期比18.7%増）、当期純利益1,525百万円（前期比21.9%増）となり、ともに最高益となりました。

代表取締役社長

今井博文



「GOOD TO GREAT」をテーマに、  
永続的な成長企業への転換を  
目指します。

2009年9月期が終わりましたが、当期の成績や成果について、またもし残された課題があれば、それについてお伺いしたいのですが。

主力である診断用薬とホルモン剤、この2つの柱が順調に売上実績を伸ばしたということが、まず成果として挙げられます。その他も全般的に好調な成績で推移しておりますが、その中で残された課題といえば、今期ホルモン剤の中でも特に注力した新薬の「ルナベル®配合錠」が女性医療市場の普及へ向け、立ち上がりやや遅れましたので、引き続きルナベルの市場をしっかりと作っていくことでしょうか。

当期も含むこの3年の前中期計画についてはいかがですか？

新薬を上市いたしましたほか、研究面では付加価値の高い製剤の開発に着手しておりますし、新しいホルモン剤専用の工場を立ち上げました。このように、我々にとってハードルの高い新たな取り組みを通じて、自分たち自身が成長できたと思います。ただいくつか開発の遅れがありましたので、今後は研究開発を軸にした事業活動の体制をしっかりと作っていきたいですし、それが次の中期の基本戦略の柱にもなっています。

ではその次の、新中期計画(2010年9月期～2014年9月期)について、概要を教えてくださいませんか？

新中期計画の最終年度で50期という半世紀を迎えることになりますので、その次の半世紀、次の時代に向けてさらに成長するための基盤を固めるといことが大きなテーマです。永続的な成長企業へ転換を図り、世界に通用するような会社を目指すための体制作りとも言えるでしょう。

### 基本方針

- 新たな注射剤を軸に重点疾患領域を拡大する。
- 女性医療のリーディング・カンパニーを確立する。
- 次の半世紀へ向け新たな経営体制を構築する。

### 基本戦略

- 研究開発を真ん中にした事業運営体制を構築する。
- 戦略疾患領域における営業のプレゼンスを確立する。
- 三極 GMP モデルとなる高活性医薬品工場を完成する。
- 次世代人材パイプライン強化、経営体制を刷新する。

それでは新中期計画の3つの基本方針、まず「新たな注射剤を軸に重点疾患領域を拡大する」についてお聞かせください。

注射剤を軸にしながらも、取り組む領域を広げたいということです。これまで順調に推移している診断用薬は、多くががんの診断用なのですが、今中期では診断だけでなく、がんの治療にも活動の幅を広げていきたいと考えています。抗がん剤や造血剤、吐き気をおさえる薬、痛みをおさえる製剤などの品揃えを図っていくことを計画しています。

2つめが、御社のひとつの強みでもある「女性医療のリーディング・カンパニーを確立する」ですね。

産婦人科の治療のメインとなるホルモン療法分野では、すでにかかなりの品揃えが図られています。今後も新薬を含め、ホルモン療法については全部をサポートできるという体制をほぼ確立できると考えております。

最後3つめ、「次の半世紀へ向け新たな経営体制を構築する」については？

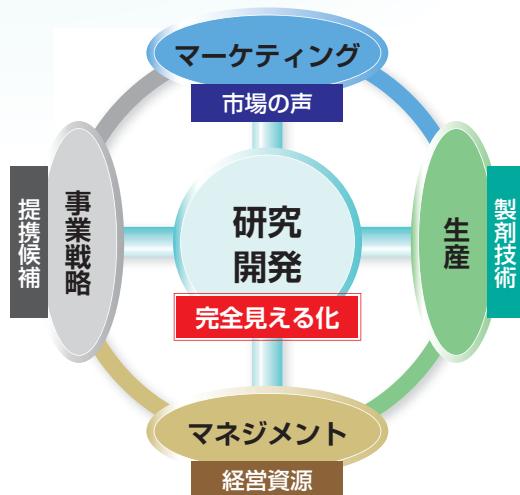
薬の場合、どうしても開発に時間がかかりますので、次の中期、つまり2015年以降に何をするのかをしっかりと準備し、次世代ビジネスリーダーの人材層をより厚くしていくということですね。

それではその3方針に基づいた、4つの基本戦略の特徴や具体的な取り組みについてお聞かせください。1つめが「研究開発を真ん中にした事業運営体制を構築する」ですね。

製薬企業の場合、研究開発が要となるのは当然なのですが、研究開発が独自に活動するというよりも、経営ときちんと一体になることが必要だと考えています。例えば開発の進捗状況ですとか、将来のパイプラインの候補、どんなアライアンス先と組んでいるのか、それらの情報をすべて社内で共有していくということですね。市場の声を開発に反映させる、蓄積した技術を開発のテーマに活かすなど、開発部門と、マーケティングや生産などの各部門、外部のリソースとがしっかりと連携しながらプロジェクトを遂行させていくことが重要と考えています。



2つめが「戦略疾患領域における営業のプレゼンスを確立する」ですが。



急性期医療や女性医療でさらに活動範囲を広げるという方針に基づいて、既存の女性ホルモン剤はもちろんのこと、新しく生産を計画している抗がん剤、造血剤などの各製剤についての専門性を引き上げていきます。次にSFA（セールス フォース オートメーション）、これは営業をサポートするしくみですが、そこに大きな予算を投入し体制を充実させます。またウェブなどを活用した新たなマーケティングの方法やプロモーションチャネルを利用し、マーケティングの質と量の最大化を図ります。

3つめの「三極GMPモデルとなる高活性医薬品工場を完成する」についてはいかがですか。

薬の中でも高活性製剤、つまりホルモン剤をこれまで主力として扱ってきましたが、さらには抗がん剤のような薬を作れる体制を構築することが主な戦略となっています。新工場は2011年に立ち上げますので、今中期というよりその先になるかと思うのですが、事業エリアを国内だけでなく海外に広げるためにも、GMP(医薬品の製造管理や品質管理の基準)の三極(日・米・欧)基準をしっかりと我々の生産体制を確立させていきたいと考えています。



「次世代人材パイプライン強化、経営体制を刷新する」についてもご説明いただけますか。

我々がビジネスリーダーの要件として考えているのが「心」と「頭脳」と「手足」の3つの面です。まず心…経営理念を深く信じ、一貫して実践できるということ、頭脳…開発に対し執念に近い気持ちを持って事業を組み立てられるということ、手足…現場と一体になって信頼関係を築き、事業を進めることができるということ。その3つが備わった人材を育成したり、場合によっては社外から獲得して、人材層を厚くすることは、今後の成長においても重要なファクターになります。執行役員の3名が30代と比較的若いのですが、意思決定や執行の機能についても、若い世代に徐々にシフトしていきたいと考えています。

最後に、事業目標に対する社長の思いや、株主様へのメッセージをお聞かせいただけますか。

半世紀という節目を迎えますので、これまでこだわってきた女性医療や急性期医療で我々のプレゼンスをしっかりと確立したいということが、私だけではなく、全社的な思いでもあります。また事業に経営資源を積極的に投入する一方、株主の皆様には、配当性向を今中期において3割まで引き上げるなど、これからも今まで通りに株主様への還元を図っていく所存です。

# 財務諸表 (要旨)

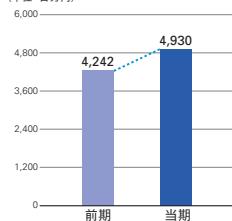
## 貸借対照表

	(単位：千円)	
	当期 (2009年9月30日現在)	前期 (2008年9月30日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	15,099,024	13,212,222
現金及び預金	2,161,361	2,275,671
受取手形及び売掛金	7,528,843	6,291,256
たな卸資産	3,928,525	3,280,308
その他	1,480,293	1,364,985
固定資産	7,763,945	7,142,892
① 有形固定資産	4,930,427	4,242,558
無形固定資産	1,323,861	1,372,300
投資その他の資産	1,509,656	1,528,033
資産合計	22,862,969	20,355,114

	(単位：千円)	
	当期 (2009年9月30日現在)	前期 (2008年9月30日現在)
<b>(負債の部)</b>		
② 流動負債	5,852,351	4,639,283
固定負債	789,022	744,041
負債合計	6,641,373	5,383,325
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	16,226,911	14,971,222
評価・換算差額等	△5,315	567
純資産合計	16,221,596	14,971,789
負債純資産合計	22,862,969	20,355,114

### 有形固定資産

(単位：百万円)

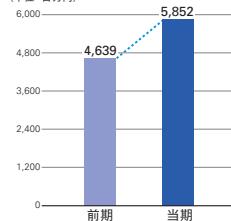


#### point — ①

富山工場の錠剤製造棟の能力増強工事と注射剤の新製造棟の一部を建設仮勘定として計上したことなどにより増加いたしました。

### 流動負債

(単位：百万円)



#### point — ②

仕入の増加及び未払法人税の増加によるものです。

## 損益計算書

(単位：千円)

	当期 (2008年10月1日～ 2009年9月30日)	前期 (2007年10月1日～ 2008年9月30日)
<b>③ 売上高</b>	17,198,775	14,937,516
売上原価	9,403,322	8,468,371
売上総利益	7,795,453	6,469,145
<b>④ 販売費及び一般管理費</b>	5,333,291	4,403,055
営業利益	2,462,162	2,066,089
営業外収益	19,796	33,111
営業外費用	4,333	12,208
経常利益	2,477,624	2,086,993
<b>⑤ 特別利益</b>	55,107	-
特別損失	63,354	56,964
税引前当期純利益	2,469,378	2,030,028
法人税、住民税及び事業税	1,066,124	776,562
法人税等調整額	△122,704	1,751
当期純利益	1,525,958	1,251,714

## キャッシュフロー計算書

(単位：千円)

	当期 (2008年10月1日～ 2009年9月30日)	前期 (2007年10月1日～ 2008年9月30日)
営業活動によるキャッシュフロー	1,816,744	952,631
<b>⑥ 投資活動によるキャッシュフロー</b>	△1,859,190	△1,331,338
財務活動によるキャッシュフロー	△270,512	△283,492
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△312,957	△662,199
現金及び現金同等物の期首残高	2,981,152	3,643,351
現金及び現金同等物の期末残高	2,668,194	2,981,152

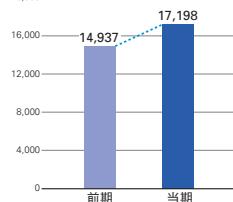
### 投資活動によるキャッシュフロー

point—⑥

point—①などの有形固定資産の取得などにより減少しております。

### 売上高

(単位：百万円)



point—③

「オイパロミン」「イオパーク」を中心とする診断用薬や「HMGフジセイヤク」「フォルルモンP注」「ブセレキュア」「ルナベル®配合錠」などのホルモン剤を中心に全体で前期比15.1%の増加となりました。

### 販売費及び一般管理費

point—④

主に人件費、研究費、販売手数料、減価償却費などが増加しております。

### 特別利益・特別損失

point—⑤

特別利益は土地の売却益などが発生したことなどによるものです。  
特別損失は通常の販売目的で保有する、たな卸資産の評価損などが発生したことなどによるものです。

## ●株式等の状況

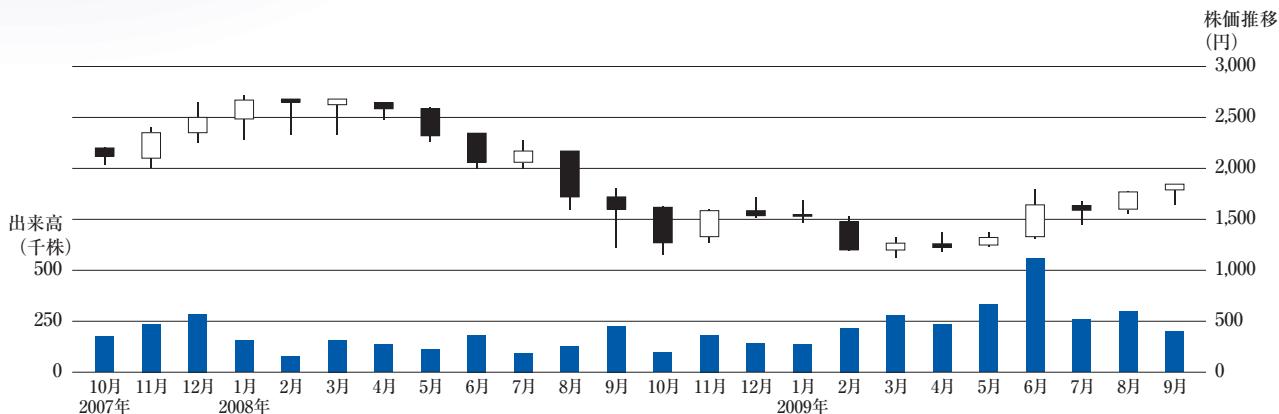
発行可能株式総数	28,220,000株
発行済株式総数	12,870,000株
株主数	2,008名

## ●大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
今井 博文	2,025,000	15.73
三井物産株式会社	1,930,600	15.00
有限会社FJプランニング	1,925,000	14.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	710,200	5.52
テルモ株式会社	643,500	5.00
今井 道子	639,000	4.97
新井 規子	620,000	4.82
ビービーエイチ ポストン・ハートランド バリュアー ファンド, インク.	455,300	3.54
アールビーシー デクシア インベスター サービスーズ トラスト, ロンドンクライアント アカUNT	195,500	1.52
富士製薬工業株式会社 従業員持株会	195,290	1.52

## ●株価・出来高の推移

上場証券取引所 ジャスダック証券取引所 (証券コード: 4554)



## ●所有者別株式分布



金融機関	1,420,300株	11.03%
証券会社	51,874株	0.40%
その他の法人	4,813,600株	37.40%
外国法人等	1,467,400株	11.40%
個人その他	5,116,816株	39.77%
自己名義株式	10株	0.00%

## ●所有株数別株式分布



1,000株未満	318,610株	2.47%
1,000株以上10,000株未満	877,500株	6.82%
10,000株以上100,000株未満	1,648,200株	12.81%
100,000株以上1,000,000株未満	4,145,090株	32.21%
1,000,000株以上	5,880,600株	45.69%

## ●会社概要

会社名 富士製薬工業株式会社 (Fuji Pharma Co., Ltd.)  
 所在地 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番19号  
 設立 1965年4月  
 資本金 16億1,695万円  
 事業内容 医療用医薬品の開発・製造・販売  
 (注射剤、内用剤、外用剤、診断薬)

役員	代表取締役社長	今井 博文
	常務取締役	下堀 穂積
	常務取締役	広見 覚
	常務取締役	徳永 賢一
	取締役	上出 豊幸
	取締役	小沢 伊弘
	取締役	内田 正行
	常勤監査役	中村 稔
	監査役	三村 藤明
	監査役	佐藤 明

(2009年12月18日現在)

社員数 457名

## ●事業所

富山工場・研究所  
 〒939-3515 富山市水橋辻ヶ堂1515番地  
 TEL: 076-479-9000 FAX: 076-478-3565

札幌支店  
 〒003-0023 札幌市白石区南郷通8丁目北2番25号  
 TEL: 011-861-7607 FAX: 011-861-7637

仙台支店  
 〒983-0036 仙台市宮城野区苦竹2丁目7番20号  
 TEL: 022-284-9818 FAX: 022-284-8976

東京支店  
 〒102-0094 千代田区紀尾井町3番19号  
 TEL: 03-3264-2211 FAX: 03-3264-2266

富山支店  
 〒939-3524 富山市水橋伊勢屋280番地  
 TEL: 076-478-3571 FAX: 076-479-1199

名古屋支店  
 〒465-0042 名古屋市名東区照が丘59番地  
 TEL: 052-778-1801 FAX: 052-778-1803

大阪支店  
 〒564-0053 吹田市江の木町30番27号  
 TEL: 06-6368-2860 FAX: 06-6368-2867

福岡支店  
 〒814-0003 福岡市早良区城西1丁目8番36号  
 TEL: 092-851-5752 FAX: 092-851-5759

## 富士製薬工業株式会社

### ○IRに関するお問い合わせ

本社／管理部  
 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番19号  
 TEL: 03-3556-3344 FAX: 03-3556-4455

### ○当社IRサイトをご活用ください。

当社ホームページでは、経営計画や決算情報等を掲載しております。ぜひご活用ください。  
<http://www.fujipharma.jp/>



# 株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月開催
基準日	定時株主総会 毎年9月30日 期末配当金 毎年9月30日 中間配当金 毎年3月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先) ☎0120-176-417 (インターネットホームページ URL) <a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>
上場証券取引所	ジャスダック証券取引所

## ●第45期 期末配当金のお支払いについて

第45期 期末配当金は、同封の「第45期 期末配当金領収証」によりお支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)で払渡期間内(平成21年12月21日から平成22年1月21日まで)にお受け取りください。

なお、振込先をご指定の方には、「第45期 期末配当金計算書」及び「配当金のお振込先について」を同封いたしますので、ご確認くださいませようお願い申し上げます(株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。

## ●上場株式配当等のお支払いに関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正(平成20年4月30日法律第23号)により、平成21年1月以降に当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りすることになりました(同封の「第45期 期末配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります)。

なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます。

## 生理痛の情報サイト「生理痛情報ナビ」を開設しております

多くの女性がわずらわされる生理痛は、婦人科系の病気の重要なサインでもあります。当社では、つらい生理痛に悩む多くの女性やパートナーである男性向けに、情報サイト「生理痛情報ナビ」を開設しました。生理痛の原因や症状に関するわかりやすい解説、年代・生活スタイル別の対処方法、日常生活における工夫、治療方法などのアドバイスのほか、都道府県別の病院検索や、役立つ書籍なども紹介しています。ぜひお役立てください。

<http://seiritsuu-navi.com/>

